



学内広報

No.1299

2004.10.27
東京大学広報委員会



イラク国ハッサン・ムサンナ県知事、東大病院訪問
日本・イラク医学協会長（前列左）、ムサンナ県知事（前列右）、日本・イラク協会理事（2列目左）、ムサンナ県企画局長（2列目右）、
重松手術部長（3列目左）、外務省通訳（3列目右）
（2ページに関連記事）

CONTENTS

部局ニュース	2
イラク国ハッサン・ムサンナ県知事東大病院訪問、 文部科学大臣政務官がスーパーカミオカンデを視 察、第2回日仏コローク（シンポジウム）開催さ れる、総合研究博物館小石川分館において特別展 「森万里子 縄文一光の化石 トランスサークル」展 オープニングレセプションが行われる	
掲示板	5
千葉演習林平成16年度秋の一般公開 ～紅葉の猪 ノ川溪谷へ～、生産技術研究所千葉実験所公開案 内、第30回生研公開講座平成16年度後期イブニン	

セミナー「サステイナブル（持続型）社会と環 境」、先端知機能材料デバイスラボラトリーズ設立 記念フォーラム、一般講演会開催のお知らせ、附 属図書館秋の特別展示会土肥慶蔵の医学関係資料 とその時代一鶚軒(がっけん)文庫を中心として、デ ータベース定期講習会のお知らせ、外国人留学生 のためのデータベース講習会のお知らせ	
訃報	11
平野龍一名誉教授	
淡青評論 過去から学ぶ	12

医学部附属病院

イラク国ハッサン・ムサンナ県知事、東大病院訪問

外務省の招聘により来日したイラク国ムサンナ県知事ムハマンド・アル・ハッサーニ氏が、日本・イラク協会の仲介により10月7日（木）10時に東大病院を訪問された。

来訪者は、同知事のほか、ムサンナ県企画局長アブデルサッタール・ハラーン氏、外務省中東アフリカ局中東第二課熊谷裕之外務事務官、日本・イラク医学協会都築正和会長及び石田賢司理事、外務省広報テレビチーム。東大病院内の見学と意見交換が行われ永年の両国医学関係の学術交流を目的として医師の相互訪問及び医療機材の無償支援事業を行ってきた経緯等について、都築会長から紹介が行われた。

また、永井病院長よりムサンナ県知事にイラク国の病院の現況について質問が行われ、病院の復興、医師・医療機材が不足している現況等についてムサンナ県知事から説明があり意見交換が行われた。

ムサンナ県知事の訪問により両国の医学関係の学術交流等を推進した。



宇宙線研究所

文部科学大臣政務官がスーパーカミオカンデを視察



S K入口で鈴木施設長の説明を受ける田村政務官
左から鈴木施設長、田中柏事務部長、田村政務官、小田審議官、安達秘書官、佐藤学術機関課課長補佐

田村憲久文部科学大臣政務官は9月28日（火）、岐阜県神岡町にある宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設を訪問し、スーパーカミオカンデを視察した。



山の模型を使ってスーパーカミオカンデの位置の説明を受ける。



光電子増倍管の説明

坑内では、鈴木施設長の案内で施設建設記録や研究概要の説明を受けた後、スーパーカミオカンデタンク上でのエレキハットやコントロールルームでのニュートリノ観測状況のモニターなどを視察した。

案内役を務めた鈴木施設長の説明を熱心に聞き、特にニュートリノがどこからどのように飛来するのか、超新星誕生とスーパーカミオカンデの観測の役割、必要性などについて、興味深く質問するなど短時間であったが、最先端の宇宙物理学に理解を深めた視察であった。政務官視察に際し、小田公彦官房審議官、佐藤学術機関課課長補佐、足立秘書官らが随行した。



モニターに現れる観測状況の説明



ニュートリノ研究について熱心に質問する政務官

史料編纂所／東洋文化研究所／大学院人文社会系研究科・文学部
第2回日仏コローク（シンポジウム）開催される

10月1日（金）・2日（土）の両日、恵比寿の日仏会館において、東京大学とフランス高等研究院Ecole Pratique des Hautes Etudesの共催による第2回日仏コローク「ユーラシアにおける文化の交流と転変」Colloque franco-japonais ; Interactions et translations culturelles en Eurasieが開催された。

高等研究院は、分子生物学から人類文明の研究まで、地球・生命科学、歴史・文献学、宗教学の幅広い分野でフランスを代表する研究大学院であり、平成12年に当時の蓮實重彦総長へ研究交流の提案が行なわれ、平成14年12月には、ユーラシア文明をテーマとした第1回コロークがパリで開催されている。今回のコロークは第2回目であり、東京大学学術研究奨励資金の助成を得て、東洋文化研究所と史料編纂所が実施担当部局となり、大学院人文社会系研究科の協力のもとに実施した（実行委員長：石上英一史料編纂所長）。また、日仏会館フランス事務所には会場や機材の提供などで後援をいただいた。

コローク第1日目は、主催者を代表して古田元夫副学長（東京大学）、マリ＝フランソワーズ・クレル院長（フランス高等研究院）、後援のフランソワーズ・サバン学長（日仏会館）からの挨拶に引き続き、宗教学分野、文学分野、歴史学分野、考古・美術分野の4つの分野か



古田副学長の挨拶



クレル高等研究院長の報告

ら日仏双方9人の報告者と5人の討論者がたち、「16世紀以前のユーラシアにおける文化交流」をテーマに議論を交わした。第2日目は「16世紀以後のユーラシアにおける文化交流」について、「人を通じた文化交流」と「モノを通じた文化交流」の2つのパネルを設け、それぞれ4つずつの報告を行い、ディスカッサント2名を交えて、こちらも夕刻まで活発な議論が行なわれた。参加者はのべ160名である。



討論の様子

コロークでは、日仏双方の言語に翻訳した予稿集を事前に用意し、当日は同時通訳によって討論を行った。このこともあり、ユーラシアにおける文化交流をめぐって、かなり突っ込んだ意見交換が可能となった。この成果は、コローク報告集として出版される予定である。

コローク終了後、フランス側参加者10数名は古都奈良を訪問した。法隆寺や平城宮跡・大極殿復元工事現場、東大寺および正倉院などを拝観、見学し、現地の研究者の解説に熱心に耳を傾けた。実際の史跡や遺跡、仏像・伽藍建築に接することによって、日本の古代文化に対する理解を深めるとともに、はるかユーラシアの東西における文化交流に思いをはせるものとなった。



法隆寺にて

総合研究博物館

総合研究博物館小石川分館において特別展「森万里子 縄文—光の化石 トランスサークル」展オープニングレセプションが行われる



レセプション参加者からお祝いの花束を贈られる森万里子氏

10月16日（土）、総合研究博物館小石川分館（文京区）において、ニューヨーク在住の国際的アーティスト森万里子氏を迎えた特別展「森万里子 縄文—光の化石 トランスサークル」展のオープニングレセプションが行われた。

レセプションには、上杉道世理事、森巨元総長をはじめ、森万里子氏の関係者など約250名が出席し、展覧会のオープンを盛大に祝った。

上杉道世理事、森巨元総長に引き続き挨拶に立った森万里子氏は、主催の総合研究博物館関係者のオープンまでの多大な尽力と、協賛・協力企業の援助に対し深い感謝の念を述べた。

また、企画監修を務めた西野嘉章教授は、今回の展示が実験展示を常に標榜してきた総合研究博物館としての新たな試みの一つであるとし、知の最先端である東京大学と、まさに現代芸術の流れに身をおくアーティスト森万里子氏が出会い、縄文（jomon）というキーワードにより結びつき、ここに作品として結晶した、と企画の成功を語った。

森万里子氏は、「ニューズウィーク」や「アエラ」の表紙を飾るなど今や国際的なアーティストとして知られており、日本の伝統美や仏教と現代日本のサイバー的文化状況、そして先端技術を融合させた作品をつくり続け、ヴェネチア・ビエンナーレの優秀賞受賞（平成9年）をはじめ、ファッション・ブランドで有名な「プラダ」の美術館（平成11年）やロンドンの芸術の殿堂ともいふべき「ロイヤル・アカデミー」での展覧会（平成12年）参加など世界的な舞台で活躍している。

展覧会は、総合研究博物館所蔵の縄文の遺物（重要文化財含む）を、森万里子氏の創作した作品と組み合わせた複数のインスタレーションと、それぞれのドローイングや、森万里子氏自身が日本各地をフィールドワークした際に撮影した写真作品を中心とした構成になっている。

開催場所 総合研究博物館小石川分館
 (文京区白山3-7-1 理学部附属小石川植物園隣り)

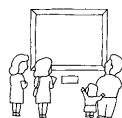
開催期間 10月16日(土)~12月19日(日)
 (月・火曜日休館。ただし、祝休日の場合は開館)

開館時間 10時~16時30分
 (入館は16時00分迄)

入館料 無料

問い合わせ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

URL <http://www.um.u-tokyo.ac.jp>



大学院農学生命科学研究科・農学部 千葉演習林平成16年度秋の一般公開 ~紅葉の猪ノ川溪谷へ~

お知らせ

通常、千葉演習林敷地内の立入りは許可制になっておりますが、紅葉のシーズンを迎えるにあたり、猪ノ川溪谷の一部を以下の要領で一般に公開いたします。猪ノ川溪谷と素晴らしい紅葉をお楽しみください。

また、森林や林業に関する研究の紹介、演習林に関する解説もいたします。

公開日

11月23日(祝) 27日(土) 28日(日)
 12月4日(土) 5日(日) の5日間

時 間

9時から16時まで
 (柚ノ木への入林は14時30分まで)

公開区間

君津市折木沢地先、演習林ゲートから黒滝方面、猪ノ川林道に沿って約2km、および柚ノ木歩道約1km地蔵峠まで

交通手段

JR久留里線上総亀山駅から徒歩約1時間
 公開期間内は駅に案内が掲示してあります。

お問い合わせ

千葉演習林天津事務所
 (TEL 0470-94-0621 FAX 0470-94-2321)

ホームページ

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>

生産技術研究所 生産技術研究所千葉実験所公開案内

お知らせ

本所千葉実験所は、駒場キャンパスでは実施が難しい大規模な実験的研究やフィールドテストなどのための附属施設です。平成14年には海洋工学水槽（生産研水槽）が完成するなど、研究・実験施設等を拡充し、研究活動を活発に展開しています。恒例となりました実験所公開を、今年も11月12日（金）に下記の通り予定しております。特別講演、電気自動車や海中ロボットのデモンストラーション、ガイド・ツアーなども企画しておりますので、進展の著しい研究活動と設備の充実した研究実験棟、研究施設等を、是非この機会にご高覧ください。

日 時：11月12日（金） 10時～16時
場 所：東京大学生産技術研究所 千葉実験所
 〒263-0022 千葉市稲毛区弥生町1-8
 JR総武線 西千葉駅北口下車 約250m
問い合わせ先：生産技術研究所 千葉実験所事務室
 電話 043-251-8311

公開テーマと研究室

- ・サステイナブルITSプロジェクト
 …………… 池内研究室、桑原研究室、須田研究室
- ・コンクリート構造物の現在と未来
 …………… 魚本研究室
- ・沈没船を探索する自律型海中ロボット
 …………… 浦研究室
- ・水の同位体を用いた大気・陸水循環過程の解明
 –土壌中の水の動き、水の同位体からわかること–
 …………… 沖研究室
- ・次世代空調システムの開発
 …………… 加藤（信）・大岡研究室
- ・円管内旋回流の乱流統計量に関する研究
 …………… 加藤（千）研究室
- ・千葉実験所における実大空間構造物の開発
 …………… 川口研究室、藤井（明）研究室
- ・浮体工学と水遊びの科学
 …………… 木下研究室
- ・補強土壁工法に関する実大盛土実験
 …………… 古関研究室
- ・地震断層に対する社会基盤設備の防災性向上に関する研究
 …………… 小長井研究室
- ・持続生産のためのバイオマス資源の利用
 …………… 迫田研究室（望月・崔研究室と合同）

- ・バイオマスリファイナリーの創成
 …………… 望月・崔研究室（迫田研究室と合同）
- ・車両空間の快適性評価 …………… 須田研究室
 スケールモデル走行実験装置と次世代の鉄道車両の運動制御
 ITS車両による道路路面計測
- ・構造物の動的破壊に関する研究
 …………… 中埜研究室
- ・免震・制振・スマート構造
 …………… 藤田（隆）研究室
- ・電気自動車では何ができる？
 …………… 堀研究室
- ・半導体級シリコンの高速精製
 …………… 前田研究室
- ・既存不適格構造物の耐震補強を推進させる制度と技術
 –途上国から先進国までを対象として–
 …………… 目黒研究室
- ・熱間変形加工時の内部組織変化
 …………… 柳本研究室
- ・“超”を極める射出成形
 …………… 横井研究室
- ・能動型マイクロ波センサによる海面観測
 …………… 林研究室
- ・船舶の波浪中航海性能試験
 …………… 新領域創成科学研究科 影本研究室

生産技術研究所 第30回生研公開講座平成16年度後期イブニングセミナー「サステイナブル（持続型）社会と環境」

お知らせ

私達の豊かな生活は、大気や水の循環の中で生産される食料や地中から掘り出される石油や鉄鋼石などの鉱物資源を糧に成り立っています。生産活動によって生み出される食料・工業製品・エネルギーは、多様な流通経路を通過して莫大な物量が地球全体に移動し、消費あるいは蓄積されていますが、工業化や都市化が進む中で、「資源の枯渇」や「環境破壊」が深刻な問題となっている場合もあります。本セミナーでは、資源の循環や環境の現状とそれらの問題点について多角的な視点から捉え、将来、私達が目指すべきサステイナブル（持続型）社会について解説します。

日時：平成16年11月5日（金）～平成17年1月28日（金）
 各金曜日 18：00～19：30

会場：生産技術研究所 第一会議室 (Dw-601)

平成16年11月5日(金) 18:00~19:30
前田正史 教授 「サステナブル材料と物質循環」

平成16年11月12日(金) 18:00~19:30
山本良一 教授
「エコデザイン(環境適合設計)の歴史的発展と展望」

平成16年11月26日(金) 18:00~19:30
渡辺 正 教授
「空騒ぎだった“ダイオキシン・環境ホルモン問題”」

平成16年12月3日(金) 18:00~19:30
野城智也 教授 「サステナブルな都市・建築」

平成16年12月10日(金) 18:00~19:30
柴崎亮介 教授
「グローバルな土地利用・水利用からみた食糧問題」

平成17年1月14日(金) 18:00~19:30
迫田章義 教授 「バイオマスタウン」

平成17年1月21日(金) 18:00~19:30
吉江尚子 助教授 「プラスチックと環境」

平成17年1月28日(金) 18:00~19:30
沖 大幹 助教授 「世界の水と食料と気候変動」

受講資格：

学歴・所属など受講資格の制限は一切ありません。
学生、大学院生から一般の方まで、ご興味のある方は
どなたでも参加できます。

定員：90人(先着順) 受講料：無料

参加方法：事前の申込みは必要ありません。

なお、定員オーバーでも受け付けますが、席のない場合もあります。

※講義内容は都合により変更になることがありますので
ご了承下さい。

問い合わせ先：総務課庶務係 tel 03 (5452) 6008~9

大学院工学系研究科・工学部 先端知機能材料デバイスラボラトリーズ設立 記念フォーラム

お知らせ

- ・日時：11月5日(金) 13:00~20:00
- ・場所：武田先端知ビル5階 武田ホール

東京大学工学部の教員有志が、新設された武田先端知ビル・スーパークリーンルームを活動拠点に学科横断による学際共同研究を行うため、「先端知機能材料デバイスラボラトリーズ」を結成しました。本ラボの持つ様々な工学知を皆様にご紹介するとともに、実りある産学連携活動を行う契機にすべく、本フォーラムを開催します。

- ・参加無料。申し込みは
<http://sentanchi-lab.t.u-tokyo.ac.jp/>まで。

・プログラム

開会の辞 大学院工学系研究科長 平尾公彦 教授

※Plenary Talk

「知識の構造化とデバイス研究」

理事(副学長) 小宮山宏 教授

「産学連携による知のスパイラル構造」

副学長/産学連携本部長 石川正俊 教授

「第2ステージに入ったVDEC活動」

大規模集積システム設計教育研究センター長

浅田邦博 教授

※先端知機能材料デバイスラボラトリーズ研究紹介

「常温接合の可能性」

精密機械工学専攻 須賀唯知 教授

「再生医療のためのマイクロ・セルソータの開発」

機械工学専攻 笠木伸英 教授

「最先端半導体技術で創る賢いコンピューター-心理学的脳モデルVLSIシステム-」

新領域創成科学研究科基盤情報学専攻 柴田直 教授

「最先端プロセス技術で創る半導体光デバイス集積回路」

先端科学技術研究センター 中野義昭 教授

「マルチスケール解析に基づく最先端デバイス用プロセス開発」

マテリアル工学専攻 霜垣幸浩 助教授

「“デバイス開発から頼りにされる”放射光ナノ分光」

応用化学専攻 尾嶋正治 教授

※新たな産学連携の提案

(株)アドバンテスト 代表取締役会長 大浦博

(株)ヴァン・パートナーズ 代表取締役会長 中島蕃

NPOエコデザイン推進機構 事業統括理事 林秀臣

(株)オムニ研究所 代表取締役社長 吉見武夫
電子実装工学研究所 (IMSI) 理事長 藤井滋
東京大学産学連携本部 特任教授 大場隆之

閉会の辞

先端知機能材料デバイスラボ代表 松本洋一郎 教授
武田先端知スーパークリーンルーム設備説明・施設見学会
技術交流会・ポスターセッション

問い合わせ先：E-mail: sentanchi@hotaka.t.u-tokyo.ac.jp

物性研究所

一般講演会開催のお知らせ

シンポジウム・講演会

物性研究所では、柏市及び柏市教育委員会と一般講演会を開催します。

講演会では、スペースシャトルの事故原因の解明や物質の性質における電子の役割などの身近な話題から科学を考察します。

日時：11月20日(土)17時～19時30分
(16時30分開場)

場所：アミュゼ柏クリスタルホール
柏市柏6-2-22 (TEL 04-7164-4552)
JR常磐線・東武野田線柏駅東口下車徒歩7分

講演者・プログラム：

D.Osheroff 氏
(スタンフォード大学教授、平成8年ノーベル物理学賞受賞)

「Understanding the Columbia Shuttle Accident」

小林俊一 氏
(東京大学名誉教授、前理化学研究所理事長)
「電子とあなた、電子と私たち」

参加料：無料

申し込み：

往復はがき、FAXまたはEメールで、11月15日(月)まで「一般講演会希望」と明記し、氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)も記載してください。

問い合わせ先：

東京大学柏地区庶務課庶務係
〒277-8581 千葉県柏市柏の葉5-1-1

TEL 04-7136-3207 FAX 04-7136-3215
E-Mail issp-syomu@kashiwa-jimu.u-tokyo.ac.jp
URL <http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/contents/week/news/kouenkai20040020.html>

附属図書館

附属図書館秋の特別展示会 土肥慶蔵の医学関係資料とその時代 - 鶚軒(がっけん) 文庫を中心として

お知らせ

今年の特別展示会では、総合図書館所蔵の「鶚軒文庫」の中から興味深い資料の数々を紹介いたします。

当館が所蔵する鶚軒文庫とは、明治・大正期に医学部教授であった土肥慶蔵が収集した古医学書のコレクションです。土肥慶蔵は皮膚泌尿器科学の分野で大きな功績を残した一方、漢詩文にも親しみ「鶚軒」と号したことから、この名称が付けられました。

展示会では、『解体新書』刊行前にその予告編として発行されたと言われている『解体約図』を始めとして、貴重な資料も公開します。

また、医学部の協力により土肥慶蔵ゆかりの品々も展示できる予定です。それらを背景にして、西洋医学の黎明期である明治・大正という時代を偲びます。

展示期間中には、加我君孝教授による記念講演会も企画しました。ご期待ください。

特別展示会

会期：11月10日(水)～11月24日(水)
(土・日・祝日も開催)
9時から19時(入館は30分前まで)
会場：総合図書館3階ホール

特別講演会

講師：加我君孝教授(医学部)
日時：11月15日(月)15時～16時30分
演題：土肥慶蔵のウィーン大学留学
- 花開く19世紀末のオーストリア・ドイツの医学 -
会場：総合図書館大会議室
(西口玄関より入り、3階)

問い合わせ先 情報サービス課参考調査係
電話03-5841-2647

情報基盤センター
データベース定期講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。パソコンを使った実習を中心に行います。どうぞお気軽にご参加ください。

また、ネイティブスピーカーの講師による英語編も好評実施中です。留学生の方のご参加もお待ちしております。

会場
総合図書館1階メディアプラザI 講習会コーナー

時間帯（一部変更になりました）
11:00～12:00、15:00～16:00、16:30～17:30

定員 12名（先着順）

参加方法
参加予約は不要です。
ご都合の良い時間帯を選んで、開始時間までに会場に直接お越し下さい。

各コースの内容

コース名	内 容
入門編 Introductory Course	授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
FELIX 編	雑誌記事索引、SwetScan、PCIの3つのデータベースが統合検索できる目次情報検索システムFELIXを用いて、文献を調査し入手するまでの方法を検索実習を行いながら紹介します。
Web of Science 編	引用索引データベースWeb of Scienceの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
電子ジャーナル 編 Electronic Journals	基本的な電子ジャーナルの利用方法、利用上の注意点から代表的な出版社の電子ジャーナルシステムを用いた効率的な文献検索方法まで実践演習を行いながら紹介します。

スケジュール（11～12月）

月	火	水	木	金
11/1 11:00-12:00 電子 ジャーナル	11/2	11/3 休日	11/4	11/5
11/8 16:30-17:30 FELIX	11/9	11/10	11/11	11/12
11/15	11/16	11/17	11/18 11:00-12:00 入門	11/19
11/22	11/23 休日	11/24 11:00-12:00 Web of Science	11/25 休館日	11/26
11/29	11/30 15:00-16:00 入門	12/1	12/2	12/3
12/6	12/7 英語編 15:00-16:00 Introductory Course	12/8	12/9	12/10 16:30-17:30 電子 ジャーナル
12/13	12/14 11:00-12:00 FELIX	12/15	12/16	12/17

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

なお、情報基盤センターではデータベース定期講習会の他、授業やゼミにお伺いする出張講習会や、1名から申込可能な個人向け講習会を実施しております。どちらも受講者の方のご要望に応じた内容で行いますのでぜひご活用ください。

申込方法等については
GACoS
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/index.html>をご参照ください。

問い合わせ先 学術情報リテラシー係（22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

情報基盤センター 外国人留学生のためのデータベース講習会のお知らせ

お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおり韓国・中国からの留学生のためのデータベース講習会を開催します。

レポートや論文の作成に欠かせない、データベース・ネットワークを利用した最新の学術情報の収集方法を、ネイティブの通訳の説明により実際にパソコンを操作しながら学習していきます。

参加ご希望の方は、下記の講習会申込みページからお申し込みください。

<http://daikoku.lib.u-tokyo.ac.jp/training/fs2004.html>

なお、参加申し込みが定員に達し次第、締め切らせていただきます。

日時 11月16日(火)14:50～16:20 (韓国語編)
11月19日(金)14:50～16:20 (中国語編)

場所 総合図書館1FメディアプラザI
講習会コーナー

定員 各回12名

内容 ・OPAC、ブックコンテンツ等を利用した蔵書検索
・雑誌記事索引データベース等を使った論文検索
・Web of Science等を使った海外の論文検索
・電子ジャーナルの使い方
などについて、実例に則して解説します。

備考 2日間とも同内容で実施します。

なお、12月7日(火)に英語による講習会も実施いたします。詳細はデータベース定期講習会のお知らせ(12月)をご覧ください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai>

問い合わせ先 学術情報リテラシー係 (内線22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内(写真がある場合は文字数を控えるにしてください。)
- ・写真には、キャプション(説明文)を添えてくださるようお願いします。

送付先 東京大学総務部広報課
TEL:03-3811-3393 内線:82032、22031
FAX:03-3816-3913
E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合や、12月を除きます。

平成16年度の学内広報の発行スケジュール
<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gen/gen3/kouhou.htm>

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

平野 龍一 名誉教授

本学名誉教授・元総長、平野龍一先生は、去る7月16日（金）逝去されました。享年83歳でした。先生は、昭和17年9月、東京帝国大学法学部をご卒業と同時に同学部助手になられました。その翌日に臨時召集で入隊され、終戦まで軍務に就かれました。戦後、東京大学に戻られて、昭和23年に法学部助教授に任ぜられ、昭和33年に法学部教授に昇任されました。法学部及び大学院法学政治学研究科において、刑法、刑事訴訟法、刑事学、裁判法などの授業を担当され、学術研究と後進の指導育成に尽力されました。学内行政の面でも、「東大紛争」に際して、その解決に尽力され、また昭和44年から昭和45年まで法学部長を務められました。昭和52年から2年間、東京大学総長特別補佐を務められた後、昭和56年4月から4年間、第22代東京大学総長として東京大学の運営と発展に貢献されました。昭和60年に退官され、東京大学名誉教授の称号を受けられました。

先生は、学外においてもご活躍になられ、日本刑法学会理事長、国際犯罪学会理事、国際刑法学会理事を務められたほか、法制審議会刑事法部会委員、法制審議会監獄法改正部会委員、中央精神衛生審議会委員、公衆衛生



審議会委員、中央児童福祉審議会委員、東京都地方労働委員会公益委員、臨時脳死及び臓器移植調査会委員などの要職を歴任されました。

先生は、刑法、刑事訴訟法、刑事政策、精神医療と法、等々の多岐にわたる分野で、数多くの業績を残されました。特に、刑事訴訟法の分野では、戦後の新刑事訴訟法上の基本問題を理論的に解明される論文を次々と発表され、学界と実務に大きな影響を与えられました。また、刑法の分野では、伝統的刑法学を鋭く批判して新しい刑法学の体系を示され、刑法学の理論的發展に大きく貢献されました。先生のご業績は、『刑事訴訟法』、『刑事訴訟法の基礎理論』、『刑法の基礎』、『刑法総論』、『犯罪者処遇法の諸問題』などの代表のご著書のほか、ご論文集『刑事法研究』（全6巻）としてまとめられています。先生は、これらの学術上のご業績によって、昭和63年に日本学士院会員に選ばれ、平成11年には文化功労者に選ばれました。

先生は、晩年の闘病生活の間も研究をお続けになり、学者としての一生を全うされました。ここに先生のご功績とお人柄を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院法学政治学研究科）



過去から学ぶ

本郷キャンパスの朝、よく犬の散歩に出会う。長い歴史を感じさせる背の高いしっとりとした銀杏並木がつくる広い緑の空間を、小さな犬がとことこ歩く風景にいつとき心は和むが、すぐに心穏やかでいられなくなる。

我が家にも、足が短く胴体と顔がバランス的に長大な、(飼い主の思い込みといわれそうだが)しかし顔の整ったコーギ犬がいる。人間との関係づくりにおいて極めて賢い散歩好きの知能犯である。「めんどろだがしかたない」という飼い主の心の動きを作り出し、「散歩に連れ出さざるを得ない」気分まで加速させることにたけている。普段は安全な場所で居眠りをしているのに、散歩につれていってもらえそうな時間になると人の通る場所に出てきて、人の足にあたらぬ微妙な間合いで時々主人を振り向きつつ人の前を歩き、散歩時間をアピールする。散歩につれ出す人のささいな動作(目が合うなど)は決して見逃さず、散歩準備(靴下をはくなど



の)動作の片鱗をみせようものなら、ここぞとばかりに吠え立てて散歩を促す。

人の日常生活をさりげなく見守っており、その人が必要とするサービスを提供する知能ロボットが私の研究テーマである。1)人の行動をみてその長期間記録(行動コンテンツ)を構築し、2)それから発見・学習した頻出行動パターンをふまえて必要サービスを予見・実施するロボット、(聞こえは悪いが)ロボットに過去をもたせ、過去の経験から学ぶ能力を付与することが重要と認識している。

人は過去から学べる。我々は今こそ、知を求め人を育てる大学本来のありかたとその知恵を大学の歴史から学ばねばならない。最近のキャンパス内の動きは一時の潮流に流され過ぎてないか。東大の長い歴史を感じさせる本郷キャンパスで犬の散歩に出会い、人間との関係における過去の事例を生かす犬の知能のすばらしさに思いをいたすにつけ、ロボットも人も過去からきちんと学ぶべきであると心穏やかでなくなるのである。

佐藤知正(大学院情報理工学系研究科)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1299 2004年10月27日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO